

いのち
生命のにぎわい調査団
いのち
生命のにぎわい通信

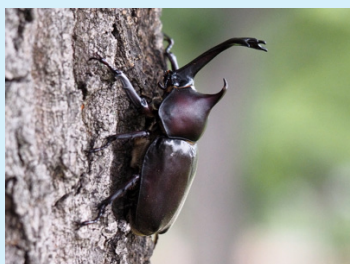
第 35 号：発行 平成 27 年（2015 年）7 月

発行：千葉県環境生活部自然保護課
千葉県生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2
（千葉県立中央博物館内）
TEL 043-265-3601 FAX 043-265-3615
URL <http://www.bdcchiba.jp/monitor/>
E-mail monitor@bdcchiba.jp

夏のヒーロー！大型昆虫を見つけよう！

かつては身近に多く生息していた大型昆虫ですが、県北西部では出会うことが難しくなっています。普通種だったゲンゴロウも、千葉県からもう姿を消してしまいました。タガメも絶滅が心配されており、県内での記録は途絶えています。（a0000 は撮影者の団員番号です。BDC はセンター職員が撮影）



カブトムシ a0708

夏の昆虫として知名度 No.1。海外産のカブトムシの人気に押されつつもまだまだ人気。飼育されることも多く、累代飼育も比較的容易。



ミヤマクワガタ a0034

頭部や大アゴの形が独特で、人気がある。幼虫で 4 年ほど過ごし、成虫になってからは 3 ヶ月ほどしか生きられないため、飼育には適さない。



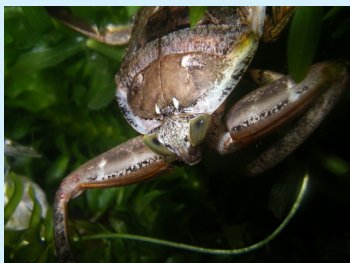
シロスジカミキリ a0034

日本最大級のカミキリ。県北西部ではほぼ見られない。背中の黄色い斑は、死ぬと白くなる。幼虫はクリ等の生木を食べるため嫌われている。



オニヤンマ a0963

日本最大のトンボ。大きく鮮やかな模様と、生息数の多さから人気がある。街中でも見られることがある。成虫になるまで 2 年ほどかかる。



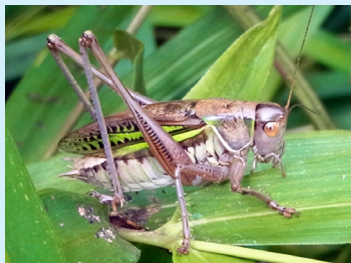
タガメ BDC

日本最大の水生昆虫。知名度は高いが生息数が激減し、幻の昆虫となってしまった。県内の純粋な野生個体群は絶滅した可能性が高い。



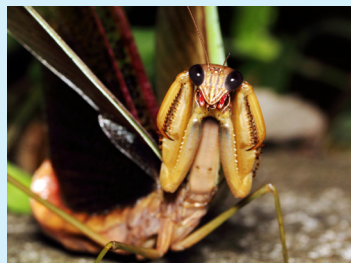
クマゼミ BDC

日本最大級のカミキリ。県内での知名度は低い、東京湾岸の埋め立て地等で徐々に増えている。関東では午前中に良く鳴く。



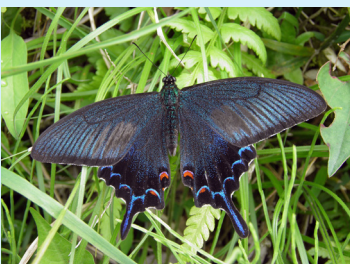
ヒガシキリギリス a0585

鳴き声を楽しむために飼われていたようだが、県内での分布は元々限定されていたと思われる。広めの草原に生息する。



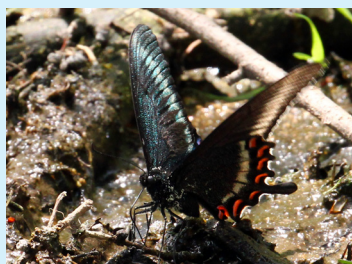
オオカマキリ a0034

日本最大級のカマキリ。前脚の鎌は非常に鋭く、挟まれると血がでることもある。後翅が濃い紫色で、前脚の付け根の斑が黄色い。



カラスアゲハ a0389

大型のアゲハ類で非常に美しい。暑い日には地面に降りて給水することがあり、観察のチャンス。幼虫はカラスザンショウの葉を食べる。



ミヤマカラスアゲハ BDC

日本で最も美しいと言われるアゲハ。県内では非常に少なく、はっきりとした生息の報告はない。後翅の白線は夏型でははっきりしない。



オオミズアオ a0285

旧学名「アルテミス（月の女神）」の名が示す通り非常に美しく、飛翔姿も幻想的。成虫は口がなく、何も食べることができない。

お願い

個人で繁殖させた個体は野外に放さないでください。単一の遺伝子を持った個体ばかりになると、特定の病気などで地域個体群が絶滅する危険があります。

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報は、当センターと調査団のホームページをご覧ください
「生物多様性センター」<http://www.bdcchiba.jp/> 「調査団」<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html>

平成 27 年度 第 1 回現地研修会

大房岬で海辺の生きものを観察しよう！ 春の磯・砂浜・岬の森へ！ を開催しました

平成 27 年 5 月 9 日（土）

春の現地研修会は、大房岬自然公園（南房総市）で開催しました。岬の森（洞穴や要塞跡地、池）を歩き、砂浜や磯では水に入って、じっくり生きものを探しをしていただきました。空は厚い雲に覆われていましたが、研修会の間はなんとか降らずにいてくれて、午後 3 時に解散後しばらくしてから大粒の雨が落ちてきました。団員 57 名、自然保護課・生物多様性センター職員 12 名の総勢 69 名でがんばった結果、271 種類の動植物をみつけることができました。発見した生きもののリスト（別添）をぜひご覧ください。

午前中は班を分けて、1 班は要塞跡地の見学→池で水生生物の観察、2 班は洞穴探検→海岸で植物観察。芝生園地で昼食の後、午後は大房岬の南側にあるタイマイ浜とその周りの磯で、1 時間ほどかけて、海の生きものを探しました。用意した水槽やバットにつかまえた生きものを集め、終了時にセンター職員が、すべての生きものについて解説しました。ウニの仲間だけでもアカウニ、ムラサキウニ、バフンウニの 3 種類、不思議な青緑色の顔をしたアサヒアナハゼも見られましたし、まさか採れないだろうと思われたマダコをつかまえてくれた小学生もいました。房総の海の豊かさを実感していただける一日となったのではないかと思います。これから夏本番ですので、海に行く機会もあるかと思いますが、水の事故や危険生物（ヒョウモンダコ、クラゲ、シロガヤなど）には十分注意しながら、調査団に生きもの報告をぜひお寄せください。



ケヤリムシ

ゴカイのなかまで、泥で作った管に入っくらしています。花のように広げたフサフサで水中の餌を集めていますが、人が近づくと管の中にサッと引っ込みます。



カラマツガイ

海の貝には鰓^{えら}があるのが普通ですが、この貝は肺を持つ有肺類^{ゆうはいるい}の仲間です。岩に張り付くようにくらす地味な貝たちも、よく観察すると多様であることがわかります。

研修会当日は、お見せしたい生きものが多すぎて、時間が足りませんでした。大房岬の面白い生きものから 3 つ、ご紹介します。



トビギンポ

「～ギンポ」と名のつく魚は色々な分類群にいて、すべてが同じ仲間ではありません。この魚はトビギンポ科の一種で、食用にされるギンポとは全く違うグループに属しています。



お知らせ



平成 27 年度 第 2 回現地研修会は 平成 27 年 10 月 24 日（土）

場所は養老溪谷方面を予定しています。詳しくは次号の通信をご覧ください。

＜これからの季節に観察できる生きもの＞

- 調査対象種：セミの仲間、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、サワガニ、ヤマユリ、オオフサモ（外）など
- 調査対象種以外（種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします）
- * 渡りのヒタキ類、サシバなどの猛禽類 * 各種昆虫、両生類、爬虫類など
- * 希少生物（生息・生育数が減少している生物）や、外来生物の報告も受け付けています。

メールアドレスなど、団員登録情報に変更がありましたら、事務局までお知らせください